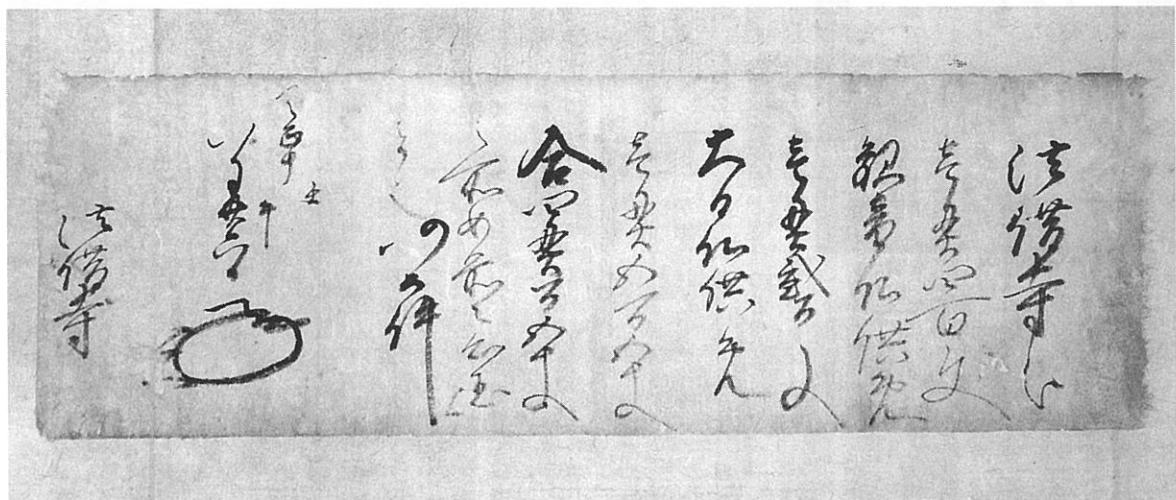


糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館



▲ 村内に現存する最古の古文書 【宝積寺所蔵】

天正十年（1582）、小笠原定慶が法借寺（宝積寺）に出した安堵状

古文書（こもんじょ）

村内には江戸時代の古文書が数多く残されている。古ぼけた文書など何の役にも立たない無用なものと思いかちであるが、この古文書こそ先祖が残したものであり、この歴史であり、何百年を経た今日、私達が直接触ることのできる生きた資料である。

古文書は御家流と云われる独特の文字・書式で書かれているので読めない、難しいものというイメージであるが、これとて祖先が日常的に読み書きしていたもので、今にしても読めていいはずなのだ

が……。

これらの古文書を見ていると、その時代／＼を生き抜いた祖先の生き様や、その時代の背景と、これを書き記した人の気持ちがひしひしと伝わってくる。

これらの古文書は、村の歴史を語る文化遺産であり、宝である。

庶民の生活を語る古文書

江戸時代の村ではほぼ完全な自治を行っていたが、村政一般を預かりとり仕切ったのは、名主（庄屋）・組頭・百姓代の村方三役であった。村方三役をしていた家には、戸籍・土地・定め事・年貢・助郷等、当時の様々な公文書（古文書）が残されている。これらは教科書に書かれた幕府の歴史からは分からぬ、庶民の暮らしぶりを鮮明に物語る資料である。山形村の江戸時代を知るには欠かせない貴重な文化遺産である。

転馬
助郷

江戸時代 旅人や荷物の運搬は各宿場常備の人馬によつて宿場から次の宿場へと運び届けられた。これを転馬といふ。ところが大通行になると宿場備えの人馬では間に合わないので、近隣の村々より人馬の徴収が行われた。これを「寄人馬」・「助郷」といつた。宿場の問屋より助郷の村へ徴収の「助郷人馬触当書」が出され、石高に応じて人馬が割り当てられた。山に転馬の言葉が使われてゐる。(今でも道路清掃など奉仕のとき、お転馬の言葉が使われてゐる。) ところが大通行になると何時でも徴収され、の為多くの犠牲が払われた。不参・遅参は厳しく罰せられた。これでは農繁期には耕作もでき兼ね、度々窮状を訴える「訴状」が出された。その訴状が数多く残されている。農繁期には耕作もでき兼ね、度々窮状を訴える「訴状」が出された。それた。農繁期であろうとお構いなく徴収された。助郷の手当は少なく、それを転馬といふ。

▲ 助郷の割り当てを書き 留めた文書

木から他出(旅)する時は、名主の身元を明らかにした「送り状」を持つて出なければならなかつた。身元の明らかでない者は、無宿者として扱われ関所の通行ができず、宿もとれなかつた。それに寺の宗門の送り状が添えられた。

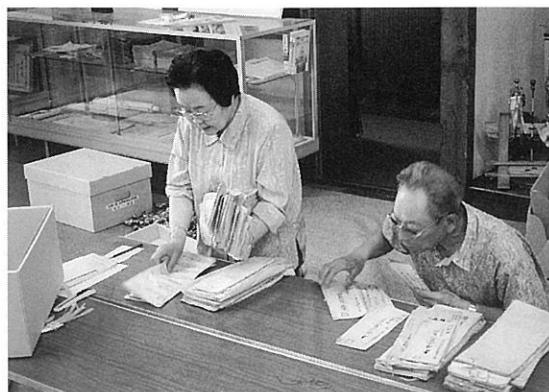
人送り状



行をお願いする

古文書の保管——お宅の古文書見直してください。

貴重な文化遺産である古文書の材質は、言わずと知れた「紙」です。火事による焼失、雨漏りや不慮の出水による水損はもちろんのこと、保管状況が悪い（高熱、高湿度、酸化、光、虫喰い等）と、知らず知らずのうちに劣化させてしまっていることもあります。歴史資料を永く伝えていくには、古文書にとつて最適な状況を整え、劣化させる要因を取り除くことが必要です。



古文書の整理作業風景



中性紙の箱、袋へ
入れられた古文書

しかしながら古文書を劣化・消失させている一番の要因は我々「人間の手によるもの」です。家の建てかえ等により忘れていた古文書が出てきた際、きたない、邪魔だといって燃やしてしまった。おじいちゃんは大事にしていたけど、息子の代になつたら邪魔だから捨ててしまつた。古文書を保存・継承していく意識の薄さからくる不慮の事故でよく耳にします。



▲ 虫喰いにあった古文書

ふるさと伝承館には上大池中村家の古文書をはじめ、明治・大正期の役場文書など一万点弱の「歴史資料」を保管しています。古文書を入れておく袋や箱は中性紙のものを使っています。一般に市販されている箱や袋は酸性紙を使っているので、「酸」が古文書の紙を劣化させてしまうからです。保管してある部屋は、高温になつたり高湿度になつたりしないよう空調をしています。また虫喰いを防ぐため、燻蒸殺虫してから箱に入れ保管しています。

御自宅に古文書はありませんか。お宅の古文書を見直してみてください。虫に喰われている、黒が生えている等、保管方法に関する御質問はもちろん、読み方が分からぬから教えてほしいといったことでも結構です。ふるさと伝承館までお問い合わせください。



▲ 展示替えした館内の様子

開館時間 毎週土曜日午後一時～五時
入館料 大人一一〇円 子供五〇円

考古資料の展示替えをしました

ふるさと伝承館には遺跡からの出土品を数多く展示していますが、この度展示替えをしました。昨年上大池淀の内遺跡から出土した、縄文時代（約四千年前）のひすいベンダントを常設展示しているのをはじめ、蛇の頭をかたどった土器、人間の顔をあしらつた土器も今回展示品に加えました。この機会にぜひ御来館ください。